

読書で想像の世界を飛び回ろう

尾木直樹

読書って、夢の時間です。言葉や文章に想像を膨らませながらページを繰っていくと、心は多様に動き、頭は冴えてきて、「心の目」が開いていく。想像の世界を自由に飛び回ることができる読書が、私は子どものときから大好きです。

全国の小・中・高校では「朝の読書」がずいぶん普及してきましたが、読書の効果が支持されていることの表れでしょう。脳科学者も認めています。本の中身というよりも、紙の本に向き合って文字を読んでいく脳の活動そのものが子どもたちの心を落ち着かせ、これから一日のスタートを切ろうとする彼らを優しくバックアップしてくれるんですね。

乳幼児や小学校中学年くらいまでの子に対しては、読み聞かせですね。その最大の魅力は、読み手と聞き手が一緒に本の世界に入り込んでいけるところ。親子の愛着はあっというまに深まります。保護者や地域の大人がPTAの活動などで学校で

読み聞かせをしているところもありますが、これもいい。1冊の本を共に読み心を通わせる。かけがえのない、至福の時間が過ごせます。本が人の心をつなぎ、学校の力量も上がります。

ポイントは、絵をどう読み解いていくのかです。早期に文字を教えてしまうと、子どもは文字ばかり追って絵を見なくなりがちです。これは実にもったいない。幼児期、特に3歳前後は観察力がとても鋭いので、絵を見て観察力を存分に伸ばし、想像力を豊かに膨らませてあげたいですね。時には「どうしてカニさんは泣いているんだろうね」などと子どもに聞いてみるのもいいかもしれません。大人の考えや教訓を押し付けるのではなく、子どもの気持ちを引き出し膨らませる言葉かけができればすてき。ぜひ、お子さんの気持ちを受けとめてあげてください。

楽しい読書体験を通して、子どもも大人も人生を豊かに彩りたいですね。

教育評論家 法政大学名誉教授
臨床教育研究所「虹」所長

尾木直樹 おぎ なおき

1947年滋賀県生まれ。早稲田大学卒業後、中高の教師として22年勤め、その後法政大学教授などとして大学教育に22年携わる。「尾木ママ」の愛称で親しまれ、子どもと教育に関する問題を中心に調査・研究、全国への講演、評論活動が続ける。多数の情報・バラエティ・教養番組やCM等、様々なメディアに出演。公式ブログ、Instagram、TikTokなどSNSでも活躍中。著作（監修含む）は230冊以上。2023年度より都立図書館名誉館長。

